

第12回「自閉症に優しい社会」研究会

「障害者家族と社会、地域生活のための制度設計について」
中根成寿先生(京都府立大学公共政策学部)

主著:『知的障害者家族の臨床社会学』明石書店

日時: 2012年1月29日14時～16時30分

場所: 金沢大学宝町キャンパス十全講堂2階

参加費: 無料

要旨

「障害の社会モデル」とは、「障害」を個人と社会の間にある社会的障壁と捉える視点です。この見方をすると、「障害」は、個人の内部にある器質的欠損(障がい)から社会と個人の間にある見えない壁(障害)へと変化します。同時に、障害は個人がもつ特性から家族を取り囲む壁、という理解になります。

では、その壁は、家族に、親に、本人にどんな影響を与えるでしょうか?というテーマでお話をさせていただこうかと思います。家族のおかれている制度的、法律的状况と合わせて、家族の感情や気持ちも考えていきます。さらに、ある特定の時期だけではなく、ライフサイクル＝家族が年を経ることで、状況やニーズも変化していきます。

変化する家族の生活を社会はどう支援することができるのか、特に親は社会にどんな期待をしていて、どんな不安をもっているのでしょうか。家族の期待と不安に答えられる制度について、今回は「障害者制度改革推進会議総合福祉部会骨格提言」で提案されているパーソナルアシスタンス制度を一例に出して考えてみます。

そして、制度が変わってもなかなか変わらない、親心について、参加者の皆さんとディスカッションをしたいと思います。ご参加お待ちしております。